

クライアントレポート

レポート日	対象者	作成者
日付 2023年 1月23日	名前 Y.S 性別 男 年齢 40代	名前 山田悠平

障がい名・状態

脊椎小脳変性症（20代で発症）

呂律が回りにくい、身体の震え、バランス感覚が取りづらい、歩行動作の際のふらつきなど

期間 2023年 1月～ 2024年 1月

初見の状態 希望や目標

軽い震えあり、杖をついて来店

全身の筋力の向上、減量（症状が悪化しないような運動方法を身につける）

当時のリスク

神経系の緊張が強く、諸症状が悪化するスピードが早くなってしまう危険性があった。

脳へのダメージが蓄積してしまうリスクがあった。

実地内容

関節の動きのコントロール（神経系の改善） 脊柱の柔軟性（自律神経の緊張と緩和）

コンプレッションストレッチ、マッサージガンでの組織リリース、フォームローラーでのセルフリリース→感覚受容器の活性化→脳への適切な信号

関節の安定エクササイズ、体幹の安定（呼吸、腹圧）、全身運動、ウェイトトレーニングなど

改善内容・現状の経過報告

杖での安定がなくても、自立して歩行などができるように改善されてきた。（体調により波アリ）

バランス感覚が前よりも改善傾向

お客様の感想

つまずきがだいぶ減ってきた感覚がある。

咄嗟の人とのすれ違いの際などに、反応ができずにふらついたりしてしまうのを今後形然していきたい。

現状維持が難しい症例でも、よくなっている感覚や維持出来ている感覚があるのは良いことだと感じている。

今後の課題

感覚受容器の働きをより活発にし、感覚をより感じやすくするアプローチが必要

神経回路を中枢から末端までしっかりとつながるようなパーツごとの運動と全身を使った運動を反復させていくこと。

身体の震えがなくなるようにしていくのが、今後の課題。